

# 子どもの命を守るために

職員がひとつとなつての避難訓練

みんなの心に深く刻まれた出来事

2011年 3月11日 午後2時46分 東日本大震災

同じ日本の地での大惨事。メディア情報から、想像を絶するほどの悲惨な光景が映し出され、目を疑った。このような大災害が起こったとき、当園ではかけがえのない子どもたちの命を守れただろうか？

## 動き出した保育園

今までの訓練の甘さを痛感した職員は園内会議で、当園の避難訓練の現状や今後の課題を出し合いました。「子どもの命を守るのは保育士。いろんな場面を想定し、それに対応できる職員が必要」このことが、保育園として子どもの命を守るための大きな課題となりました。そこで今回初となる大規模避難訓練を行うこととなりました。



### <訓練の流れ>

地震発生→地震により火災発生→園外へ一次避難→  
大規模火災となり隣施設の“すだちの家”に二次避難→指定避難  
所の上文殊小学校体育館まで園バスにて三次避難

※赤の部分が今回初となる訓練

## 大規模 避難訓練実施

当日は、初めて行う訓練

に職員の心意気はいつも以上でした。いかにスムーズに避難させることができるかを考え「私が子どもたちを誘導するから、〇〇先生は未満児クラスの応援を！」園バスが来たから誘導お願い！」などと声をかけ合いながら動きました。しかし、ふだんすぐにはできるはずのおんぶに時間がかかる、避難袋を忘れ子どもをおんぶしたまま園内に戻ってしまう、リーダー保育士の指示がないと動けないなど、新しく行う訓練への焦りから適切な行動がとれない現実もありました。

子どもたちの行動からは、自ら机の下に隠れる、ハンカチで口を押える、保育士の話を真剣に聴き指示に



従うなど毎月の訓練が身につけていると感じられました。その反面、防災頭巾は体験不足からかぶり方がわからず戸惑う、不安から泣いて歩けなくなってしまう、慣れないスリッパを履いての移動に手間取るなど、子どもたちに身につけないといけない課題も見えてきました。

## 訓練から得たもの 〜話し合いより〜

今回の震災をうけ職員の意味がわり、浮かび上がる気づきは今までとは違うものでした。

(一部紹介)



机の下に身を隠す子どもたち

**A保**：防災頭巾はいつ子どもにかぶせるべきか迷ったわ。

**B保**：地震の周期は1分位らしいから、慌てず、まずは机の下で身を守り、揺れが少しおさまってから頭巾をかぶるとよいのでは。また、

その1分の間、次はこの子どもたちをどう守っていくかを考えないとな。



避難袋、救急箱を持って“すだちの家”へ

**C保**：避難袋、救急箱など、避難時、持ち出す物が多くて大変だった。

**D保**：持ち出しも大事だけど、一番は子どもたちの命が優先ね。

**E保**：できるだけ最小限にして運びやすいようにしておかないとな。

**D保**：避難通路が歩道だと車の横転や電柱も倒れてくる可能性もあって危険じゃない？

**F保**：それに道路は緊急車両が通るから、横の砂利道

を通るのが安全だわ。砂利道を歩く練習も必要ね。

**G保**：スリッパは履きやすいけど歩きにくいよね。

**C保**：でも裸足だと危険物を踏むかもしれないし、靴は履くのにかかるし…。

**A保**：遠くへの避難を考えると靴の方がいいかもね。日頃から立ったままサッと脱ぎ履きできるように、遊びに取り入れるのもいいわ。



スリッパを履くのに手間取る子どもたち

**B保**：地震の影響で音響機器が故障し、放送を流せないかも…。

**D保**：とっさの判断で生死

が左右されるから、放送や指示に頼らず、自分ひとりであっても『命を守る』という責任感を持つべきね。

職員みんなが子どもたちのことを一番に考え、よりよい訓練にしていくなために意見を出し合い、改善策を見い出すことができました。

### 私たちの使命

かけがえのない子どもたちを預っている保育園だからこそ守るべきたくさん命があります。

だからこそ「あの時の訓練が活かされて助かった」と思えるよう、今後も毎月の訓練を意義あるものにしていきたいと思えます。

どんな災害でも職員が一人丸となり、その命を守ることが私たちの使命です。

## みんなの広場 〜職員紹介〜

足羽東保育園では、**さまざまな音楽や心地よいリズムに合わせて表現豊かに体を動かすこと**を目的とした『リトミック遊び』を取り入れています。体操教室担当の西谷大介保育士が、平成22年4月から1年間、リトミック研修に参加しました。そして、今年の3月に行われた試験に見事合格し、資格を取得しました。



子どもたちに、音楽に合わせて全身を動かす楽しさを伝えていきたいです！